

ホームページをご覧の皆様へ

当教室では、できるだけ患者さんが在宅で過ごしながらか看護師や医師などの多職種による排便ケアを受けられるシステムをつくることを目指した研究を行っています。

【研究課題】

在宅療養者に対する、看護師によるエコーを用いた大腸観察に基づく排便ケアの有効性検証

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学大学院

研究責任者 医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野

教授 真田弘美

担当業務 研究計画・データ解析

【研究期間】

2018.7.6～2023.3.31

【対象となる方】

調査施設の訪問看護利用者

【研究の目的】

既に在宅で実施されている排便ケアの記録から、訪問看護利用者に対して、看護師が行っている内容を調査します。

【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院医学系研究科・医学部長の許可を受けて実施するものです。これまでの診療でカルテに記録されている基本属性、排便に関する情報を収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

データ収集項目

1) 基本属性

年齢、性別、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度、要介護度、主な疾患、訪問看護で提供される医療処置

2) 排便に関する情報

排便状況について収集される情報・観察方法、便秘の種類、排便ケアの内容

【個人情報の保護】

あなたの情報は、解析する前にあなたの個人情報とは一切連結できないようにした上で、当研究室において真田弘美が鍵のかかるロッカーで厳重に保管します。そのため、同意を取り消すこと及び個人の結果をあなたにお伝えすることはできません。

この研究のためにご自分（あるいはご家族）のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで 2020年12月31日までにご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

この研究に関する費用は、日本医療研究開発機構 2016 年度 Medical Arts の創成に関する研究（外科、がん、看護、（研究開発代表者：真田弘美）、富士フイルム株式会社と社会連携講座イメージング看護学の共同研究契約費、厚生労働省令和2年度老人保健事業推進費等補助金「訪問系サービスにおけるロボット活用の効果検証事業」（事業担当代表者：真田弘美）から支出されています。本研究には、富士フイルムが出資している社会連携講座に所属する研究者3名（松本勝、玉井奈緒、三浦由佳）が分担者として参加しております。

利益相反に関する必要な対応は東京大学大学院医学系研究科・医学部利益相反アドバイザー機関の指導を受け適切に対処しております。また、本研究の成果の解析に富士フイルム株式会社は一切関与いたしません。尚、あなたへの謝金はございません。

2020年10月

【問い合わせ先】

研究責任者：真田弘美
連絡担当者：松本勝

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院医学系研究科・医学部
老年看護学/創傷看護学分野

Tel: 03-5841-3451 (内線 23451) Fax: 03-5841-3442

Eメール：matsumotom-tky@u-tky.ac.jp